

早稲田大学 第一文学部 世界史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	出題形式は昨年度に酷似。前年に続き朝鮮近代史から出題され、また短い論述問題が復活した。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
[I]	アケメネス朝 秦・唐の三夷教	記述式の空欄補充問題。全問が教科書レベルの頻出事項。	易
[II]	匈奴・ヴェトナム・南北朝時代・6～8世紀のモンゴル高原・チベット	正誤判定問題。Aの冒頓単于が圧迫したのは漢の武帝ではなく、高祖劉邦が正しい。Cの分裂時代に交代する短期王朝は早大の各学部に通ずる頻出分野。Eのチベット史は盲点となりやすいが、吐蕃の名を聞かれる程度なら特別な対策は不要。	標準
[III]	中国の中央官制の変遷	全体としてとくに難しいわけではないが、25字に3つも指定語句がある小論述問題は要注意。字数に納めるのに意外に手間取るかもしれない。	標準
[IV]	対日関係を中心とする朝鮮外交史	朝鮮史は2年連続の出題。日韓基本条約は今年が締結40周年ということもあり、時事問題の感がある。	標準
[V]	16世紀のイスラム世界	アクバルの対ヒンドゥー融和策についての10字の小論述は事実上の語句説明問題。	易
[VI]	ヨーロッパ史雑題(史料問題)	ヨーロッパ史からの同形式の史料問題は2年連続の出題。ただ、今年の史料は出典を連想できるキーワードがたやすく見つかるため解答しやすい。	標準
[VII]	著名画家の作品からみた19世紀欧米	絵画3枚を題材にした資料問題。内1枚の「民衆を率いる自由の女神」は受験世界史の定番的存在。マネの「草上の昼食」はややこまかい。	標準
[VIII]	19・20世紀のアフリカ	アフリカ史によく見られる地図併用問題だが、地図上の選	易

		択肢に紛らわしいものが全くないので基礎的な知識で十分である。語句を答える部分も教科書レベルで完答できる。	
--	--	--	--

〔総合コメント〕

一部にやや細かい出題が見られるが、基礎的で平易な問題が大半を占める。そのため、高校で教科書を使ってしっかり学習すれば 90 パーセント台の得点が十分可能とおもわれる。このレベルで差がつくのは小論述と史料問題であろう。史料ではキーワードを見過ごすとは致命傷になってしまうので注意が必要。出題形式がかなり固定化してきているので、来年も大きな変化はないだろう。ただ、小論述の字数が増加する可能性は高いので、50～100 字を想定しておいたほうがよい。